

ITF (Interleaved 2 of 5) バーコードを印刷するための OpenType フォントです。

配布ファイル一覧

ITF.otf フォント
 ITF.pdf フォントの使用方法 (PDF 形式)
 readme.jis この作品についての説明 (文字コード JIS)
 readme.u8 この作品についての説明 (文字コード UTF-8)
 license.jis ... ご利用条件 (文字コード JIS)
 license.u8 ご利用条件 (文字コード UTF-8)

使用方法

バーコードにしたい文字列 (数字) の前後に、スタート コード / ストップ コードに対応する文字を付加し、このフォントを使って印刷します。

フォント名は「ITF」です。スタート コードは「(」 (左かっこ)、ストップ コードは「)」 (右かっこ) の文字に割り付けてあります。たとえば「012345」のバーコードを印刷するときは、「(012345)」という文字列を「ITF」フォントで印刷します。

バーコードのパターンの間に隙間ができると正しく読み取ることができません。印刷するときは、文字同士が密着するような設定にしてください。

チェック デジットが必要な場合は、使用者が自身で付加する必要があります。

例として、モジュラス 10・ウェイト 3 のチェック デジットを付加する JavaScript のサンプル コードを示します。

チェック デジット計算の例 (モジュラス 10・ウェイト 3)

```
function append_cd(code) {
  var sum = 0;
  var w = 3;
  for (var i = code.length - 1; i >= 0; i--) {
    var d = parseInt(code.charAt(i), 10);
    if (isNaN(d))
      return "";
    sum += w * d;
    w = 4 - w;
  }
  return code + String((10 - sum % 10) % 10);
}
```

リガチャについて

このフォントでは、OpenType フォントのリガチャ (合字) という機能を使用しています。

リガチャとは、二つ以上の連続する文字に対してひとつのグリフを割り当てるものです。たとえば、欧文で「f」と「i」が連続して現れるとき、次のように、二つの文字を合わせてひとつの字形にするために使用します。

fi → fi

ITF バーコードは

00 |||||
 01 |||||
 02 |||||
 ⋮

のように、2 文字に対してひとつのバーコードのパターンが対応する仕様なので、フォントを作成する際、文字と 1:1 でグリフを割り付けることができません。そこで、00, 01, 02, …, 99 のすべての数字の組み合わせに対してリガチャを定義することで、フォントを作成しています。

ご使用の環境(OS やアプリケーション)で OpenType フォントが使用可能であっても、リガチャの機能がサポートされていない場合は、バーコードが正しく表示されません。

スタートコード/ストップコードについては、単純に 1 文字にひとつのグリフを割り付けばよいため、リガチャは使用しません。そのため、リガチャがサポートされていない環境でも、スタートコード/ストップコードの部分だけはバーコードが表示されます。もし、ご使用の環境でスタートコード/ストップコードの部分しかバーコードが表示されない場合は、その環境ではリガチャがサポートされていないと思われます。